



熊本県地域おこし協力隊 OBOG 紹介 BOOK Vol.1

He and She

他・彼女の続いていく熊本ストーリー2020



ご挨拶 くまもと地域おこし協力隊ネットワーク

くまもと地域おこし協力隊ネットワークが産声を上げたのは、2020年2月26日でした。熊本県内で地域おこし協力隊として活動し、任期終了後も定住している卒業生で構成され、会員同士の交流や現役隊員のサポートを目的としています。

設立1年目を迎えた今年度は、新型コロナウイルスの影響で当初計画していた事業が計画通りに進まず、皆さまへのサポートやニーズに十分に答えることが出来なかったのではないかと感じています。荒波の中、舵を取り、進み出した当団体

でしたが、オンライン開催となった各種研修や移住相談会などで、多くの皆さまと画面越しにお会いできたこと、大変嬉しく思っています。

さて、本紙は、熊本県内に定住している卒業生の活動を広く知っていただき、協力隊活動に興味のある方、各自治体、そして地域の皆さんにとって、今後の地域づくりの参考になることを願って作成しました。

熊本県内で一生懸命走り続けている21名の“彼/彼女”らのリアルな声を、ぜひご一読ください。

九州のおへそ、熊本。

●人口
1,733,350人
(2021年2月1日現在)
熊本県HPより

真ん中くらい
全国
23位

あなどるなかれ
気候の
縮図!?

●気温・気候
地域によって差がある
「南国九州」と言えど、そのバラエティに富んだ地形から寒暖の差は大きい。平野部・山間部・海側で同じ県内とは思えない日も。

文豪ありがとう
復興中

●熊本のシンボル
日本三名城 熊本城
“築城の名手”、加藤清正が手掛けた。ド迫力の武者返しと白黒のコントラストが美しい外観。

人気は世界規模
モン!

●常に人だかり
くまのアイツ
圧倒的人气で熊本の認知度アップに貢献してきたくまのアイツ。熊本で生活していて彼を目にしない日はない。

市町村の位置は P.45 へ

役員紹介

会長

MIYUKI MATSUI

松井 美佑紀

おぐにまち
小国町地域おこし協力隊OG



副会長

KEIKO UEDA

上田 恵子

あらおし
荒尾市地域おこし協力隊OG



監事

MASAYUKI TAGAWA

田河 正行

やまがし
山鹿市地域おこし協力隊OB



監事

HIROKO YONEKAWA

米川 博子

なごみまち
和水町地域おこし協力隊OG



事務局

TAKASHI MURAKAMI

村上 貴志

きくちし
菊池市地域おこし協力隊OB



事務局

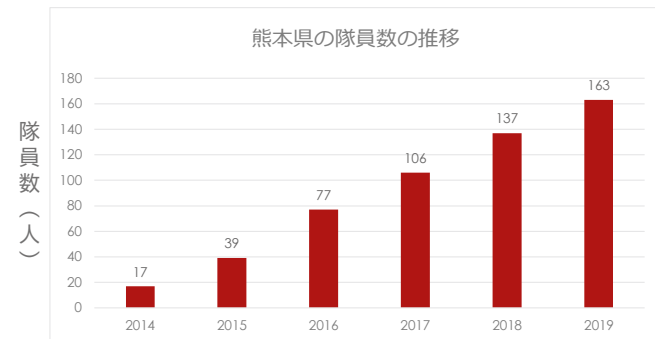
EIKO ANAN

阿南 栄子

青年海外協力隊OG (ニジェール)



熊本県の地域おこし協力隊の現状



●任期終了後の定住率 **74.0%**

任期終了者数：77人 定住者数：57人

令和元年度における、熊本県内の地域おこし協力隊の定住率は、全国平均約60%を大きく上回る74.0%となった。

「子どもたちと乗り込んで
海の道約 13km を渡ったのは
よい思い出です。」

千葉県船橋市出身

野原 大介 DAISUKE NOHARA

熊本県地域おこし協力隊OB
任期：2015年7月～2017年3月



彼のそのひと漕ぎは、きっと少年たちの財産になっただろう。

協力隊制度初期にいち早く着任。

ゆるっと流れ着いた先は 熊本の離島だった。

ー地域おこし協力隊を知ったきっかけ

地域おこし協力隊は、設立当初という
か設立前から知っていました。離島振興
に関係する調査で第1期の長崎県対馬市
の地域おこし協力隊を訪ねたことも思い
出です。当時の地域おこし協力隊は副業
が認められていないことがほとんどだっ
たので、地域おこし協力隊の安い報酬で
地方を何とかしろというのは、なんと無
茶な話だろうと思っていました。

ーなぜ熊本県の地域おこし協力隊に？

地域おこし協力隊の制度も当初と比べ
ずいぶん融通が効くようになり、副業も
可という条件になったのは大きかったか

と思います。

活動地の天草市御所浦町は、もとより
離島振興の活動で関わっており、そこら
の個人的なやりとりや行き来のある場
所でした。

ーミッションと具体的に行った内容

取り組んだのは大きく2つで、県事業
のサポートと地域文化の活用・保全でし
た。

県事業のサポートでは主に観光や誘客
に資する業務として、離島地域の特性を
活かした観光クルージングコースの造成
および運用体制の構築や、島民と参加者
の交流をメインテーマとしたマラソンイ
ベントの立ち上げ、宿泊事業者への支援
に向けた調査・提案なども行いました。

地域文化の活用・保全では、御所浦に
残っている櫓漕ぎあまくさし、ごしゅうらまちの小さな和船「伝馬舟」

について、観光客や地元の子どもの向け
の櫓漕ぎ体験などで利活用しながらの文化
保全につとめました。伝馬舟に御所浦の
子どもたちと乗り込んで、御所浦から
水俣までの海の道約13kmを渡ったのは
よい思い出です。

ー苦労した点、楽しかった点

あまり苦労という苦労はありませんで
した。地域おこし協力隊の業務と別に自
分の副業もしていましたが、今現在の自
分と比べるとずいぶんのんびりと島生活
を満喫させてもらっていたなと思います。
(その分稼ごも少なかったですが)

ー御所浦の好きなところ（定住理由）

お魚がおいしいです。お魚がおいしい
土地はたくさんあるかと思いますが、御
所浦はドサッとでてくる感じがよいです。
あとは、仲良くしている人がいることで

すね。

ー今後はどうしていきたいか

今も、御所浦の観光や物産をはじめ、
シェアライドや空き家活用など幅広く関
わっていますが、誰かの仕事になるよう
な産業を生み出せていません。何人か
でも生業になるようなことができると考
えています。

ー読んでいる人に伝えたい事

まずは自分の食いつちなのですが、自
分以外の人が地域で出来る仕事をつくっ
ていくことができたら素晴らしいと思
います。ぼくは、まだできていません(笑)

「道を譲ってくれたり
デザートが勝手に出てきたり
総括して優しい人が多い（笑）」

福岡県大牟田市出身

須田 賢士郎
KENSHIRO SUDA

あらおし
荒尾市地域おこし協力隊OB
任期：2016年1月～2018年12月



夫として、父親として、彼はその覚悟も持って。

見落とされている地域の魅力を もっと知ってもらいたくて。 知ってもらうには…？

ー地域おこし協力隊を知ったきっかけ

親から地域おこし協力隊の制度のことを聞き、前々から地元に戻って地域に貢献したいという気持ちがあったので応募することにしました。

ーなぜ荒尾市の地域おこし協力隊に？

荒尾市は出身地の隣町で、祖父の家があり、幼少期のころからよく荒尾市には遊びに行っていたので思い入れがあったからです。

ーミッションと具体的にいった内容

シティプロモーション(情報発信)でした。
○SNSでの情報発信(Facebook、Instagram)
地域のことを取材し、写真と記事にして

ほぼ毎日配信していました。

○大牟田市のラジオ局 FM たんと

月に2回地域のラジオ局に出演していました。活動報告や荒尾市の情報を発信していました。

○JR 荒尾駅とのコラボ企画(毎年2回程)

荒尾市内のカフェ、ケーキ屋、パン屋の情報だけを載せた癒しマップを作成し、荒尾駅で配布しました。また、定期券を発行、更新してもらった人には市内の飲食店で使えるクーポン券や荒尾の名産をデザインした缶バッジを作成し配布しました。

ー苦労した点、楽しかった点

苦労した点は「知ってもらうこと」です。たとえ、とても面白い活動や魅力的な店舗があっても、意外と地元の人も知りません。そこでSNSで情報を発信する

ことにしましたが最初は全く反応がなく。少しでも多くの人に知ってもらうために、広報紙やラジオ局といった情報発信の媒体を増やしました。

また、情報過多の時代で、良いものを作れば知ってもらえるという時代ではないので、コンテンツを充実させる、価値を提供することを意識して活動しました。

楽しかった点は、普通に生活しているだけでは繋がるのがなかった、魅力的な人たちと繋がれたことです。農家の方、お店の店主、お寺の住職さんなど知らない情報や知識を知れることがとても楽しかったです。

また、活動を通じて繋がった様々な業種の人たちをマッチングすることで、地域の横の繋がりがづくりに貢献できたことも楽しかったです。

ー今後はどうしていきたいか

任期中に立ち上げた株式会社の売上を大きくして、納税という形で地域貢献していきたいと思っています。

また、最近はWEBマーケティングを勉強しているので、地元を中心にWEBマーケティングでの集客方法や売り方などのコンサルをして、地域活性化のお手伝いをしていきたいです。

ー読んでいる人に伝えたい事

自分がわくわくすることを選べば後悔することはないと思います。一番大切なことは「自分がどうしたいか」なので、自分に正直になって行動すれば充実した人生になると思います。

それから、副業することもおすすめします。自分で小さくビジネスを始めてみるのはとても良い経験になります。

「人も場所も含め“好き”が
たくさんできて、荒尾市を
もっと好きになりました。」

熊本県荒尾市出身

上田 恵子
KEIKO UEDA

あらおし
荒尾市地域おこし協力隊OG
任期：2017年1月～2019年12月



彼女の想いは、有明の海が優しく包む。



生まれ故郷を愛し、 同じ境遇の人のため 後押しができる存在へ。

ー地域おこし協力隊を知ったきっかけ

大学進学を機に生まれ育った荒尾市を出て、福岡の大学で建築を学び、そのまま就職も福岡でしました。仕事は楽しかったものの労働時間も長く、体力的にも精神的にもしんどくなったりして…。

そんな時にたまたま地元の荒尾市に帰ってきて、^{ありあけかい}有明海をボーッと眺めるのが元気になる大切な時間だったんです。Uターンも考え始めた時、友人から「地域おこし協力隊」を紹介されました。

ーなぜ荒尾市の地域おこし協力隊に？

最初はUターンするための仕事のひとつとして興味を持ちましたが、最長3年

間をかけて、定住の準備が出来る事を魅力に感じて。

募集していた内容が移住・定住だったので、私がそうだったように、移住することを悩んでいる人の背中を押せる存在になれたらいいなという思いもありました。

ーミッションと具体的に行った内容

荒尾市の移住定住のメイン事業として、「お試し暮らし体験住宅」が始まるタイミングだったので、ミッションの中心もそれでした。

まずは市のHPなどで、体験住宅の告知、募集をスタートしたんですが、1組入居したあとが続かず、なかなか大変でした。そのあと少しずつチラシやHPなどに手を加えていって、何とか来てくれる人が増えていきました。

入居手続きや片付けなどの管理業務から、案内などのサポート業務、他に移住相談会などで荒尾市のPRや相談対応などをしていました。

ー苦労した点、楽しかった点

移住相談員として、市外の人との関わりは多かったんですが、市内の人との関わりを作りづらい環境だったので1年目にそこは悩みましたね。でも、当時の先輩隊員のおかげで市内の人たちとの交流を増やしていくことができ、地域イベントの司会なども経験できました。2年目以降、ミッション内容に縛られることなく幅広く活動させてもらえたことで、地域の人の協力を得ながら市の案内や紹介ができ、結果的に移住検討者の方にとってもプラスで、何事にも挑戦してみても本当に良かったです。

私、協力隊にならずにUターンしていたら半年くらいで福岡に戻ってたんじゃないかと思うんです(笑)。地元だと逆に自分のまちのことって知ろうとしない。協力隊を通して、人も場所も含めて「好き」がたくさんできて、荒尾のことをもっと好きになれました。

ー今後はどうしていきたいか

海岸近くでカフェを開く準備をしています。海を見てボーッとすることが私の大切な時間だったように、荒尾の海を訪れた人の「海時間」をより充実させる+αの事業ができたならなども。たくさんの人に来て楽しんでほしいですね。

ー読んでいる人に伝えたい事

普通に生活していたら知れなかったこと、出会えなかった人がたくさんです。まだ見ぬ自分にも出会えるかも！

「怒られることもあります
後日、笑い話となって酒の席で
披露されるのです（笑）」

香川県高松市出身

岩崎 美月
MIZUKI IWASAKI

やまがし
山鹿市地域おこし協力隊OG
任期：2016年10月～2019年10月



すやすや寝息が聞こえたら、彼女の夢は報われる。

24歳までファッション1本。 ずっとその道をいくのだと 思っていた…けれども。

—地域おこし協力隊を知ったきっかけ

熊本地震の影響で勤め先のお店が休業に。これを機会に憧れていた田舎暮らしを決意したのですが、「地域おこし協力隊」については検索ワード候補に出てきたので、サイトを見てみました。制度内容はそのとき初めて知りました。

—なぜ山鹿市の地域おこし協力隊に？

田舎で暮らすにも収入が必要なので、「仕事」として選びました。その地に定住するか考えるお試し期間としても、3年という任期は都合が良かったのです。今でこそ言える話ですが、それくらいの覚悟でした。

山鹿市を選んだ理由は、活動する週の

実動時間が短い、副業OKなど条件が良かったので選びました。当時はこんな理由で選びましたが、今は山鹿市を選んで良かったと心から思います。

—ミッションと具体的にいった内容

最初は廃校利活用がミッションだったのですが、私が未熟だったばかりに具体的な結果を残せず、他のことをするように。廃校では唯一、子ども向けイベントを2回開催し、それが好評で、小学校の長期休みには、地域の学童保育にてイベントを3年間担当しました。

それでも思う結果が得られず、自分の力のなさに落胆した悔しい1年目でしたが「地域外へのインスタグラムでの情報発信（#彼女と山鹿散歩）」や「地域内への紙面での情報発信（さとやま、岳間暮らし）」などが徐々に評判を呼びイベントのPV制

作に繋がりました。

2年目から個人で始めたシェアハウスを3年目で宿泊営業許可を取り、宿（suyasuya.）として起業すべく準備を始めました。あとは3年間地域の行事に出向いたりして、人々の暮らしを撮り続けた写真を移住冊子としてまとめました。

—苦労した点、楽しかった点

当時は何をやっても何をやり遂げても、悩み続けていました。1年目の失敗で、どんなことをしても認めてもらえていないような感覚だったのです。私は地域にとって何の力にもなれていない思いながら任期終了まで過ごしたことが一番辛く、精神的に苦労していたはずが、いま振り返って思い出したら、どのシーンも毎日楽しい思い出なので不思議です。

—今後はどうしていきたいか

今は0歳の娘がいるのである程度大きくなるまでは子育てや暮らしに専念したいと思っています。しかし1日1組限定山奥の宿suyasuya.は今も絶賛営業中ですし、できれば数店舗くらい展開したいなあとも夢を描いたりもしています。今の地域を出る予定はありません。協力隊活動時のような、地域の写真も今後撮り続けようと思っています。それでいつか、あの廃校で個展を開いたら最高ですね。

—読んでいる人に伝えたい事

落ち込んだり悩んだりすること、3年間のうちにたくさんあるかもしれませんが、その悩みのタネは後々ただの笑いのネタと化します。地域のひとたちと、お互いの失敗を笑い合えるような関係を築いていけたらいいですね。長い目で見てあまり気にしすぎず、前向きに頑張ってください。宿にもぜひいらしてください。

「自分が持っている
繋がりや経験が活かせる
それが山鹿市でした。」

熊本県氷川町出身

田河 正行
MASAYUKI TAGAWA

やまがし
山鹿市地域おこし協力隊OB
任期：2017年1月～2019年12月



彼のいるところに、人は集う。



20代から様々な仕事を経験し 30歳を機に食と農の道へ。 ヴィーガンカフェを経営中に被災。

ー地域おこし協力隊を知ったきっかけ

熊本地震後、一時避難をしていた時に、山鹿市「空き家バンク制度」を利用して物件を捜していました。当時、担当されていた職員の方から山鹿市地域おこし協力隊募集の話を知った事がきっかけです。

ーなぜ山鹿市の地域おこし協力隊に？

少しずつ山鹿の歴史や文化、風土を知っていく度に地域の魅力に惹かれた事と、自分が持っている経験や知識を活かして地域に何か貢献できるのではと思い応募しました。

ーミッションと具体的に行った内容

山鹿市地域生活課に所属し、担当業務

として「空き家バンク運営管理業務」、「移住定住に関する業務」、「移住者交流会企画」などの移住定住に関する業務を行っていました。具体的な内容としては、空き家物件の調査・登録・内覧案内や、東京や大阪などの都市部で開催されていた移住相談会への参加、移住体験ツアーの企画、移住者交流会の企画運営、移住者の移住後のサポートなど幅広く活動をしていました。業務外にも市内の地域づくり団体のサポートや支援的な事をしながら、イベントなども企画して地域の方たちと繋がりを深めていました。また協力隊の任期終了後も、移住支援員として移住定住に関する業務を行っていました。

ー苦労した点、楽しかった点

これと言って苦労した事はほとんどないです。初めての事ばかりだったので戸

惑いなどはありませんでしたが、周りの方々に助けられ任期中は充実した期間を過ごす事ができました。また、お会いした方たちのご縁に心から感謝しています。

ー山鹿市に定住しようと思った理由

風土と人です！熊本地震を経験し環境の事を考えた時に、自然災害被害などが少なく、自然の恩恵が多く残っている所だった事も決め手です。

ー今後はどうしていきたいか

地域の幅広い世代の方たちと地域で楽しめる企画などを試験的に行ってみようかと考えています。また、継続して農（大地）にも触れながらバランス感覚を研ぎ澄まして、これからも人生を楽しんでいきます！

ー読んでいる人に伝えたい事

とにかく楽しむことです。何をしても

大変な事もあるとは思いますが、人生全体で考えた時に、それを学び体験できる時間はとても貴重だと思います。

人生の選択肢の中に協力隊を経験してみられるのも良いと思いますよ！

「余生を過ごしたい、
と思える場所
それが菊池だった。」

島根県益田市出身

橋本 眞也
SHINYA HASHIMOTO

菊池市きくちし地域おこし協力隊OB
任期：2016年4月～2019年3月



彼は、終の棲家をこの地を見つける。

映画監督、脚本家という異色の経歴。 菊池の皆さんの誠実で善良な人柄と ロマンチックな田園風景と歴史に惚れる。

一地域おこし協力隊を知ったきっかけ

ずっと東京に住んでいました。東日本大震災や、60歳という年齢を機に引退を決断しました。熊本に移住したい想いは昔からあって、最初は熊本市内に住みましたが、もっと田園風景がある地域に住みたいなあ。そんな時、菊池市の泗水しすい周辺に出会い、阿蘇が遠望でき、空が広い、田んぼや高原が素晴らしい。菊池市に住みたいと思うようになりました。

その後、空き家バンクや知人に紹介してもらいながら家を探し、そんな中で協力隊制度を知りました。

一なぜ菊池市の地域おこし協力隊に？

気に入った地域に馴染み、余生を過ごしたかった。協力隊になることで、知り合いもできるし、その地域や風土など知ることができると思って。何より仕事として自分の経験、知識を活かして地域貢献できるということが魅力的でした。

一ミッションと具体的に行った内容

菊池市役所商工観光課に所属し“にぎわい創出プランナー”という肩書きで活動しました。アートフェスティバル開催と、菊池一族時代の絵の再現を行ったのですが、アートフェスティバル開催に関しては、熊本の若手アーティスト集団とタッグを組み、菊池を盛り上げたいという想いを持った有志とつながることができた事は大きかったです。

菊池一族時代の絵の再現に関しては、協力隊着任当初に、菊池一族の歴史があるということが分かったけど、地元の人

も知らない歴史があると気づきました。歴史が古すぎて遺構も残っておらず、せめて絵で当時を再現したいと思い、最初はアートフェスティバルで繋がった画家さんに頼みました。でも、それでは描けないと気づいて。本当の菊池一族の歴史を知るためには、現地訪問が何度も必要で、また当時の建築様式や文化的視点の見聞も必要だったので。

適任者がいない中、ならば自分で表現してみようと。その結果、小冊子になり、菊池市のPRにも繋がった。その後も講演会を行い、現在はYouTube 配信動画を製作中です。

一苦労した点、楽しかった点

最初は、民間と行政の仕事の進め方の違いに戸惑いましたが、徐々に仕事の進め方を理解したことで対応できました。

楽しかった点は、アートフェスティバル開催や菊池一族の歴史を調べるときに、地域の方との連携で力を合わせられた事です。本当に地域の方の助けをもらい、ありがたかったし、とても嬉しかった。

一今後はどうしていきたいか

絵を描きながら、余生を暮らしていきたい。今はネットショップの運営を行っています。オーガニック商品を取り扱っていて、一つ一つ真心こもった手作りの商品ばかりです。これは将来の生き甲斐なので、若い世代（作り手）の助けになるように成功させたいです。

一読んでいる人に伝えたい事

コロナ禍もいつかは終わり、時代は変わる、あらゆる場面にチャンスは生まれる、ただ進めばOK。これから生きる若者たち、頑張れ！

「自分も地域の
小さなコミュニティに入って
暮らしていきたいと思った。」

熊本県熊本市出身

小森田 百合子
YURIKO KOMORIDA

きくちし
菊池市地域おこし協力隊OG
任期：2017年5月～2020年3月



立ち止まるほどのコーヒーの香りがしたら、それは彼女の仕業かもしれない。

大きな地球を旅し 小さなコミュニティへ たどり着いた。

一地域おこし協力隊を知ったきっかけ

インターネットで地方移住について調べていたところ知りました。

一なぜ菊池市の地域おこし協力隊に？

以前はコーヒー店に勤務していましたが、国内の地方や海外のひとり旅で様々な地域を見てきて、自分も地域の小さなコミュニティに入って暮らしていきたいと思ったからです。

菊池市は、ミッションが明確だったことから、商いやコミュニティをテーマに活動できるところが自分の将来やりたいことにもつながると感じ、選びました。

一ミッションと具体的に行った内容

商店街活性化です。空き店舗の活用を促すため、地域の人に呼びかけて情報を収集し、出店希望者に空き店舗を紹介したり、半日ツアーを行いました。また、地域の魅力である古い文化を若い世代にも伝えようと、^{しつら}設えや発信の仕方を工夫して、職人による和菓子づくりの体験イベントを行いました。

一苦労した点、楽しかった点

苦労したことは、自分の考えや想いを伝えようとしても、地域の人にはなかなかイメージしづかったことです。私がどんなことをしようとしているのかまずは体現することが必要だと思い、イベントなどを通して伝えられるよう努めました。

楽しかったことは、地域の人々がだんだんと活動を応援してくれるようになって

きたことです。さらに仕事以外でも仲良くできる人が増えてきて、菊池に来てよかったです。

一自分の町の好きなところ（定住を決めた理由）

ほんのたまにおせっかいなどころもあるけど、人のお世話が好きで頼りになる人がたくさんいるところですね。

一今後はどうしていきたいか

私もこの地域の皆さんのように、いつか自分の商いや事業で食べていけるようになりたいと思っています。

具体的には、コーヒー豆の焙煎販売業です。焙煎したコーヒー豆を飲食店や個人の方にも買ってもらったり、イベントなどでコーヒーを飲んでもらう機会を作っていこうと思っています。

菊池には、素晴らしい農産物を作る人やそれを活かした料理を提供している人が多くいらっしゃいます。それと同じように、元は農産物であるコーヒー豆を丁寧に焙煎して、皆さんに美味しく飲んでもらえたら嬉しいです。遙か遠い国々から、やって来るところは違いますが、ローカルという点では共通しており、素晴らしい生産地の姿もお伝えできたらと思っています。

また、ご縁があって小さな川が^{のぞ}臨める古い空き家を借りています。ここを人が来れるスペースとして活用し、この地域を知ってもらうきっかけにできればと考えています。

「皆が大きな家族のよう。
心豊かな生活がこの島には
当たり前にある。」

熊本県合志市出身

蒼 和宏
KAZUHIRO TSUBOMI

かみあまくさし
上天草市地域おこし協力隊OB
任期：2017年1月～2019年12月



猫だって、がむしゃらな彼がきっと好き。



開拓者は 島の未来を想い 島の人を想う。

—地域おこし協力隊を知ったきっかけ

大学を卒業して就職しました。海外での仕事も行っていましたが、病気を理由に退職しました。社会復帰支援事業所に通っていたのですが、そこでは年4回、湯島で合宿を行っていました。畑を借りて農作業などを行うのですが、合宿以外にも個人的に頻繁に来島して農作業をしていました。

そうしている内に、だんだん島に住みたいという気持ちが大きくなり、新規就農して自力で永住を考えていました。しかし、収入面などのハードルが高く悩んでいたところ、タイミング良く湯島での

協力隊募集がありました。

—なぜ上天草市の地域おこし協力隊に？

元々湯島に永住を考えていた矢先であったこと、好きな農業振興が任務であったこと、加えてすでに何十回も島に行っていたので島民ともすでに親しくなっていました。大好きな湯島と島民のために活動できることが幸運とさえ思っていました。それに収入面の心配も解消できたので。

それに、市役所の担当課はもちろん市長や他部署の職員の方々まで非常に良くしてくださり、上天草市で良かったと思えました。

—ミッションと具体的にいった内容

当初のミッションは「農業振興」「情報発信」「イベント企画」でしたが、実際活動した範囲は多岐にわたりました。

特産品である湯島大根の有機栽培試験や援農。食品加工場を建設して海産物加工品

の開発販売。カフェの建設や映画関連。猫島として人気があるためメディアの対応。それに、フォトウェディング（前撮り）の事業化、体験型観光の事業化、観光ガイドの事業化。市のシェアオフィス・移住体験宿泊施設の設立連携。イベント企画としてよさこい踊り招致や特産品のかすみ草フラワーアレンジメント、青年部との露店出店など、たくさんです。

—苦労した点、楽しかった点

様々な取組みをしたため忙しくてあまり休めなかった事がきっかけです。ただ、取り組んだ事は卒業後もほぼ全て事業化したり継続化しているので仕事として収入を得ることができています。また、沢山の出会いや人脈を作ることができたので卒業後も様々な人と連携して事業が行えています。

—湯島に定住しようと思った理由

人口が300人で住宅地が密集しているため、島民が大きな家族のように生活しています。苗字が5つしかないので全員下の名前で呼び、助け合いや物の貸し借りが当たり前であり、心豊かな生活ができる場所ですね。

—今後はどうしていきたいか

卒業後に「合同会社 湯島屋」を起業して各種事業を行っており、地域の総合商社のような会社を目指しています。

—読んでいる人に伝えたい事

卒業後に起業を考えている方へ。田舎は困り事や課題が沢山です。でも、それを解決するビジネスを作ることが出来ます。田舎には良いビジネスが沢山埋もれています。田舎ビジネスはむしろ儲かるという概念を持ってください。住民も喜んでくれます。



「天草だけ直感的に
“宝島だ”って思って
射貫されました。」

千葉県出身
富山 宏士
HIROSHI TOMIYAMA

あまくさし
天草市地域おこし協力隊OB
任期：2018年12月～2021年3月



島と海の新たな可能性を、彼は体現する。

**150年前、天草通詞島で
盛んだったサトウキビ栽培を復活。
その可能性を掘り下げる。**

一地域おこし協力隊を知ったきっかけ

協力隊という存在を知ったのは、アースデイマーケット（オーガニックマルシェ）の事務局をしている時です。協力隊の人が出店してくださっていて、こういう仕事もあるんだなと思っていました。その時はまだ自分が協力隊になるなんて、全く想像出来ていませんでした。

一なぜ天草市の地域おこし協力隊に？

最初の頃に天草を訪れた時に出会った方から「うちの町、協力隊募集しているよ！」と声をかけていただいたことがきっかけでした。

前職を退職後、西日本を中心に移住先や

仕事になりそうな地域を探していたんです。熊本にも友人がいた縁でたびたび訪れていましたが、天草を訪れた時に“宝島だ”と直感的に思ったんです。ここだったらなんとかなるかもと。一目惚れというか、射貫かれたような気持ちでしたね。

一ミッションと具体的に行った内容

フリーミッションだったため、様々な企画を立てました。企画として進んだものは3つです。

- ① あおさまヨネーズの商品化
- ② 地元（天草市五和町）の観光地図いつわまちの制作
- ③ 通詞島サトウキビ復活プロジェクト

五和町の通詞島では、150年前までサトウキビ栽培が盛んに行われていたそうです。なので“サトウキビの島”復活を目指し栽培を始めました。

地域に漁師さんが多いので、冬場の時化

で漁に出られない時の「半農半漁」というモデルを思いつきました。

一苦労した点、楽しかった点

提案が通らなかったり、何もかもうまくいかない時期がありましたが、フリーミッション型になった後は、様々な取り組みが実践できました。

一定住を決めた理由

天草の皆さんの人柄です。地域の事柄を継承していこう、何でも教えるよ！という雰囲気です。接して下さるので、企画から実現までとてもスムーズに行うことが出来ました。

一今後はどうしていきたいか

任期を8カ月残して就職することになりました。まずはそこでしっかり自分の力を発揮して、会社の力になりたいと思っています。

また、協力隊時代から力を入れてきたサトウキビの栽培や黒糖づくりは、引き続き行っていく予定です。

一読んでいる人に伝えたい事

はじめに職員の方についてなんですけど、他の自治体も入れているからとりあえず入れてみようというのではなく、協力隊の人生に責任を持つくらいの気構え・身構えを持って対応していただきたいです。全国ではたくさん良い事例もあるので、ぜひ活かしてほしいですね。

隊員の方には、定住を考えて3年間の使い方を逆算して動いてほしいということです。3年間の活動も大切ですが、任期が終わってからが本当の始まりだと思います。

「頼ってもらえることもあり
私はひとりじゃない
って感じます。」

愛知県名古屋市出身

戸田 祐子
YUKO TODA

合志市地域おこし協力隊 O G
任期：2018年1月～2020年12月



人生を考えた時に、 その最後をどうしたいのか 考えた結果の過程に協力隊を選択。

一地域おこし協力隊を知ったきっかけ

他県ではありましたが、身内の移住について自治体職員の方と知り合い、勧められたのがきっかけです。その県の移住センターの方と何度かやり取りをする中で「あなたも移住しませんか？ぴったりの職があるのですが」と勧められたのが、地域おこし協力隊でした。

一なぜ合志市の地域おこし協力隊に？

幼い頃、山の中で育つ環境にいたのですが、寂しいというよりは、周りの人々の温かさや、のどかな自然が、幼心に「楽しかった」と刻まれていて「いつかは田舎のこういう場所や日々の帰りたい」と

望郷の思いが強かったです。

最初には九州の別の県に着任しましたが、何も残せず任期を終えてしまい…。そんな時に合志市の募集に出会いました。九州に来てすぐの頃、知人と合志市を通り、その時のきれいな農村風景の印象が脳裏に焼き付いていて、運命のように引き寄せられました。

一ミッションと具体的にいった内容

「地域商品開発・拡売」をしていました。地域にこれという名産品となるものがないことに気づいて…。そんな時に「熊本県の補助事業を利用して、農家の参加で何か作ったらどうだろう？」と市の農政課に勧めをもらい、スタートしたのが「花を栽培、利用する6次産業化」でした。

賛同者を集めて、エディブルフラワーや押し花用の花、搾油用ひまわりなどを

栽培、加工して、販売を手掛けて行き「ハイオレイックひまわりオイル」の生産販売が、事業確立できました。

一苦労した点、楽しかった点

道も、土地勘も、知っている人も全くない中、慣れるまでに時間を要しました。お店の人、畑にいる人、知らない人に声をかけ、あらゆる集まりに顔を出し、地域を車や足で走り回りました。自分が何をしていくべきかを見つけ、取り組むべき課題を探し出そうと、必至にもがきました。挫折や病気もしました。

その中で、活動に共感し、支えてくださる地域の仲間をたくさん得ました。市役所や県庁にも応援をしてくださる方がいて、情報提供や協力をいただけました。

微力な自分が、色々な経験の場を自由に与えられた環境の中で、人として学び、

成長でき、よかったです。人生の中で素晴らしい財産を得ました。

一今後はどうしていきたいか

起業はしていくつもりですが、現時点では出来る限り、やってみるとしか言えません。病気も途中でしてしまったので、無理なく、楽しく、人に迷惑をかけないように、少しでも地域の方々がプラスになったと思ってくださることを仕事として取り組んでいきたいです。

一読んでいる人に伝えたい事

先に何かあるのか分からない世の中で、どう悔いなく毎日を過ごすのかは、とても難しいです。人生、後にならないと分かりません。でも何事も「やらないよりはやったほうがよい」「やったことは、悪かったことも含めて、無駄にはならない」と教えてくれた方々の言葉を、日々ずっと胸に刻んでいます。



「遠いとか不便とか
そんなん1年たてば
ALL OKよ。」

福岡県北九州市出身

森本 和臣
KAZUOMI MORIMOTO

なんかんまち
南関町地域おこし協力隊OB
任期：2017年4月～2020年3月



彼が、町の“兄貴”になる日もそう遠くなさそうだ。

「ブレーキが壊れた、マグロのような」 そう言わしめた男の ノンストップ難関突破ライフ。

一地域おこし協力隊を知ったきっかけ

高校卒業後、愛知県の会社に14年程勤めて、早期退職制度を使って地元の北九州に帰ってきた。北九州で働いていた時、バイク事故にあって1年半入退院とか手術を5回ぐらいやって。自由に動けない期間、図書館に行って日本の温泉特集だったり世界各国の写真を見てたんやけど、地域コーナーみたいな所に「地域おこし協力隊」の実績紹介の本があったんよね。それで初めて協力隊を知って、面白そうだなーと。1人の力ではなく地域であったり周りの人とでやっていく仕事で、自分に向いてると思って。

一なぜ南関町の地域おこし協力隊に？

長男坊だから、両親に何かあった時に帰れる距離、そう考えると九州からは出れんなど。

募集をよく読んだら、福岡県との県境で、インターもあって高速を使えば2時間弱で行き来できる。南関町にとって第1号の協力隊で、みんなでゼロからスタート切れる事も良いなと思って決めた。

一ミッションと具体的にいった内容

ミッションは移住定住をメインに、情報発信、加工品開発。

着任して住み始めた家が6LDKの古民家で、梁とかも立派だったし、1人で住むにはもったいないなど。ちょっとずつ改修して任期途中に移住希望者向けのお試し住宅にしたよ。

それと、愛知県にいた時、バイク仲間と

遠出してライダーズハウスを利用した経験から「卒業後はこの家をライダーズハウスにしよう」と1年目に目標を決め、逆算して2年目に何をやる、3年目には何をと決めて活動しよったね！

一苦労した点、楽しかった点

辞めたいとか北九州戻ろうとかは一度も考えたことないな！苦労というか、加工品センターでめちゃくちゃ考えて作った白菜のスープが全く売れなかった時は「ばかやろー！」と思ったけど。そんなん酒飲んで寝たら忘れるから(笑)

楽しかったこと、嬉しかったことはいっぱいあるよ。お試し住宅がスタートして、初めて利用者が来た時は、自分がやりたいと思ってきた事が初めてやれたと思ったし。

あと、南関町を含む荒尾・玉名地域の協力隊でネットワークを作った。ひとりじゃ

できない事、南関町だけではできない事も、仲間とタッグを組めば出来たりする。

一今後はどうしていきたいか

まずは、卒業後^{おれんち}にオープンさせたライダーズハウス「俺家」の認知度を上げて人が来るのが理想！

あと何でも屋になりたいね！草刈りひとつにしても利益関係なく頼まれる存在になりたいし、DIYで色々作ったり修理したり、地域の役に立てたら。そこから、こんな奴おるよーって存在広まってけばいいし。

一読んでる人に伝えたい事

人間、ひとりでは何もできん。特に知らぬ土地ならなおさら。だから、人との接点を増やすことが大事。しっかり自分を持って、コミュニケーションを取って。途中で心が折れそうになったら、迷わずYES・NOもはっきり言うのが大切。

「東京の移住相談会で町のSNS見てますって。嬉しかったです。」

福岡県福岡市出身

高橋 幸宏
YUKIHIRO TAKAHASHI

なんかんまち
南関町地域おこし協力隊OB
任期：2017年4月～2020年3月



ファインダー越しに、彼は日常を艶やかに切り取る。

考えるより産むが易し。 直感と好奇心が 新たなフィールドにいざなう。

一地域おこし協力隊を知ったきっかけ

福岡市内で建築の営業や、カフェスタッフをしていました。ある日、街中の掲示板に南関町の地域おこし協力隊募集のチラシが貼ってあって。“地域おこし協力隊”という名称も“南関町”って地名さえも知らなかったんですけど、でもそれ見てなんか面白そうだなって。

一なぜ南関町の地域おこし協力隊に？

チラシが南関町だったからってのが正直なところなんですけど、根拠はななくとも面白そうって思えたところがポイントなのかもしれません。

あんまり考えずってっていうと語弊があ

るかもしれませんが、深く考えるより行動に出るタイプですね。

一ミッションと具体的に行った内容

情報発信・移住定住、商店街の活性化がミッションでした。とにかく色んなことをやりましたね。

例えば、移住定住業務なら、町内の空き家調査のために区長さんのところを回ったり。実際に空き家があれば、住める状態かどうか現地に出向いたり。情報発信だと、SNSの更新とかですね。

あとはイベントに携わることも多かったんです。町には“いすー1GP”^{ワングランプリ}っていう、事務いすで町内の道を滑走するイベントがあるんです。裏方として何から何までやりましたね。スタートのピストルを撃つ、スターターなんかもしましたよ（笑）

個人でイベントもしました。カメラを独

学でずっと学んでいたの、商店街活性化の一環で、SNS講習とかカメラ講習とか。地域の神社を巡りながらだったので、地元の人がたくさん来てくれました。

一苦労した点、楽しかった点

3年目の時に“いすー1GP”の運営に充てていた補助金が無くなって。開催が危うかったんですけど、地域の人の中で大会を開催したいという有志が集まり、新たな実行委員メンバーで開催することになりました。

決まったイベント事をやらされるのではなく、住民から何かをしたいという形で自発的に行ったこと、とても大事だなと実感しました。

一定住を決めた理由

地元がお隣の福岡県で、まず距離感がちょうどいいですね。南関町は熊本県の北の玄関口ですから。生活の不便もとくにないですよ。

一今後はどうしていきたいか

空き家を使ったレンタルスタジオのオープンを予定しています。空いた時間はフリースペースとして使用し、証明写真や写真の印刷などができる場所がないことから、それらを補えるようにしていきたいです。それに、町内で撮影会のイベントなども計画しています。

一読んでいる人に伝えたい事

私が地域おこし協力隊になった3年前と比べて行政、地域おこし協力隊側ともに求めるものの質がかなり変わってきていると感じています。

ただ移住者というよりは、自分たちの地域活動を一緒に応援・活動する隣人ぐらゐの感覚で接していただければ、今後の協力隊員も活動に取組みやすいのではないのでしょうか。

家族のため、支えが欲しい人のため、今日も彼女は歌う。

「どこに行っても
知り合いがいる
っていう安心感。」

宮城県多賀城市出身

柳原 志保
SHIHO YANAGIHARA

なごみまち
和水町地域おこし協力隊OG
任期：2012年4月～2015年3月



歌う防災士 しほママ。 幾多の困難を乗り越え 地域のために経験を伝導する。

ー地域おこし協力隊を知ったきっかけ

東日本大震災による心のケアで、妹家族が住む和水町へ移住を決意しました。失業手当をもらうつもりでしたが、妹に相談したところ、行動的で活発な性格のわたしに適した仕事を町が募集していると教えてもらい、協力隊制度を知りました。当時はまだ制度が始まったばかりで、卒業生も出ていないため未知の分野でした。

ーなぜ和水町の地域おこし協力隊に？

震災直後、長男を妹家族宅に疎開させて4カ月世話になった時、学習机や文具などの支援を役場が手配してくれたり、

地域の人たちが温かく迎えてくれたため、恩返しがしたいと思いました。それに、妹家族が先に移住していたので、頼れる存在もいました。コンビニもないTHE田舎という景観に、「子育て環境には面白そう」と興味もありました。

ーミッションと具体的にいった内容

制度初期のため、事例も少なく、ミッションは「地域を活性化する取組」とざっくり。
【1年目：知る】町を知り、自分を知ってもらい、輪に入る事から始めた。地域行事、特に親子行事には積極的に参加。学校での読み聞かせやふるさとガイドへの参加など。よそ者だからこそ、謙虚に、教えてください、という姿勢を大事にした。

【2年目：アクション】東日本大震災後、熊本市内へ移住した親子を町へ呼び、田舎体験交流会を定期的実施しつなぎ役を行う。

団体「つなガイド」を結成し、毎月新聞を発行、食の名人と研究会を発足。ミュージカル経験から老人ホーム慰問コンサート、三加和温泉PR大使やイベントの司会、婚活イベントの実施。防災士の資格をとり、地域での防災訓練の企画や講演活動始める。

【3年目：連携】近隣市町との連携の大事さにも気づき、町外メンバーと「菊池川流域さらくnet.」設立、ひとり親家庭団体玉名郡会長、防災講演と活動範囲や人脈が町外にも広がる。集大成として空き家再生プロジェクトを1年かけて行う。

ー苦労した点、楽しかった点

【苦】①熊本弁。「よか」がいいのか、だめなのか、結局どっち？と思うことがしばしば。②良かれと思ってはりきるとそこまで求めてなかったと住民との温度差もしばしば。③「根回し」不足で、行政担当者か

ら「相談がない」と怒られたこともしばしば。
【楽】好きなことや特技を活かした。

ー今後はどうしていきたいか

2019年7月から自営で防災啓発を軸に『歌う防災士しほママ』で活動中です！

講演やメディア出演、監修など、好きな歌とセットで元気を届ける安心術を伝えていきたいと思っています。それが宮城、熊本で大災害を経験した自分の使命だと思います。知識や伝える技術をアップデートし、オリジナリティを極めて全国で種まきをしたいです。

ー読んでいる人に伝えたい事

「声をかけてもらえる存在に」大災害、コロナ、移住者など困難・孤独を乗り越えるには自分の心のあり方や知恵(自助)。そして人とのつながり(共助)が大事。感謝と謙虚さも忘れずにね。

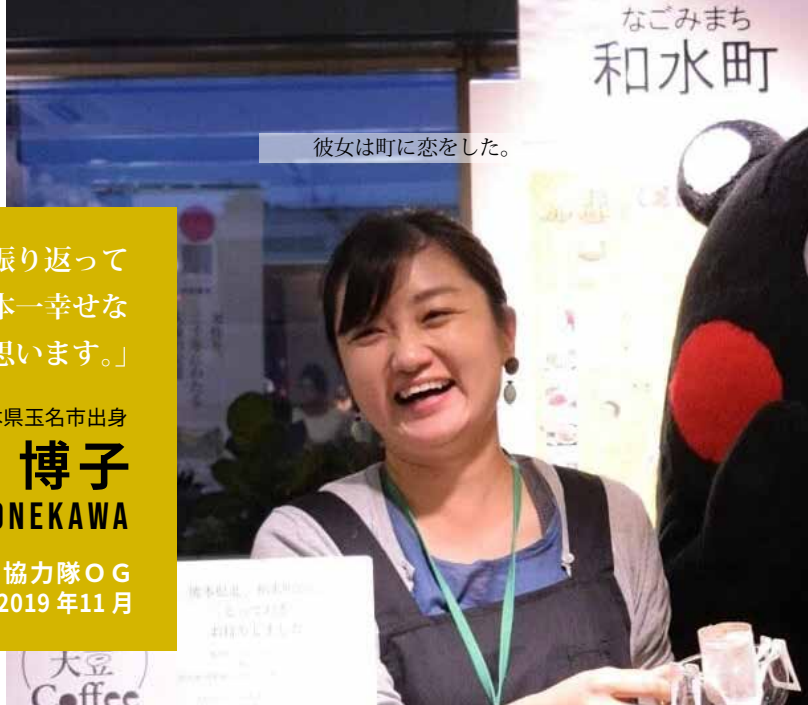
彼女は町に恋をした。

「3年間を振り返って
私は日本一幸せな
協力隊だったと思います。」

熊本県玉名市出身

米川 博子
HIROKO YONEKAWA

なごみまち
和水町地域おこし協力隊OG
任期：2016年12月～2019年11月



50年後の自分を想像したら 和水町の風景にたたずむ 年老いた自分の姿が出てきた。

—地域おこし協力隊を知ったきっかけ

和水町に住もう、仕事見つけよう、と思っ
た後のことでした。役場の職員さんから「こ
ういうのありますよ」って教えていただいて。

—なぜ和水町の地域おこし協力隊に？

和水町だったからです。中学卒業と
同時に熊本を出て、福岡・東京と合計15
年県外で過ごしました。20代までは良
かったんです。仕事内容も、友人にも恵
まれ、生活は便利だし。

でも、30歳を目の前にしてふと「私、
このまま東京で歳を取るイメージ湧かない
や」って。50年後の自分を想像したら、
父の出身地で幼い頃にいつも遊びに行っ

いた和水町の風景が勝手に浮かんできたん
です。

—ミッションと具体的に行った内容

ミッションは商品開発でした。^{たかの}高野地
区という所の住民の皆さんで構成される
地域づくり団体があるのですが、自主財
源での協議会運営に着手されていました。

これまで休耕地で大豆栽培などをされ、
そのノウハウを活かし加工品にして「稼
げる地域づくり」を目指そう、そして町
の名産品にもしよう、と。それで生まれ
たのが『Nagomi 大豆 Coffee』です。

コーヒーのプロを招いて製造方法や衛
生管理を学んだり、パッケージや価格の選
定、試飲会の開催、卸し先への営業・納品、
製造や在庫管理、広報など総合的に行い
ました。泥臭かったと思いますよ（笑）

—苦労した点、楽しかった点

苦労は特になかったです。和水町はも
と地域づくりが盛んで、協力隊の歴史も
長く、役場も住民の皆さんも色々慣れて
らっしゃる。大変なことがあっても、後か
ら笑い話になることが多くて。地域の皆
さんも役場も「できるしこ（熊本弁で“でき
る範囲で”）でよか。一心同体だけん、何
かあった時は何でん言え」っていつも言っ
てくださって。それでだけで十分でした。

楽しかったことは無限にあります。ずっ
と笑って過ごしていました。幸せな3年間
でした。和水町でなければこうはいかな
ったと思います。

—和水町の好きなところ

ありすぎちゃってどうしよう（笑）。天
の川が見える夜空とか、至る所に沸いて
いる湧き水とか、虫が乱舞する小川とか、
山のおいがする空気とか。

でもやっぱりそこに住んでいる人です。
「こんな人たちが周りにいるなら、暮ら
していける」って思えたから定住を決め
ましたし、先輩たちの定住率の高さもその
表れだと思います。

—今後はどうしていきたいか

与えてもらったばかりの3年間でした。
町に恩返しをしたいです。

細く長くでもいいので、地域づくりか
ら生まれた大豆コーヒーを継続させるこ
と。それから印刷物を中心としたデザイ
ンスキルも協力隊活動で自然と身につ
いたので、地域の課題解決のためにデザイ
ンという手段でアプローチしたいです。

—読んでいる人に伝えたい事

理解してほしいけれど、理解しなくちゃ
いけないし、視野は広く持つておくべき
です。それと、笑顔と挨拶ですね（笑）

「フレンドリーで
面倒見の良い周りの皆さんに
心を打たれます。」

神奈川県横浜市出身

齋藤 剛司
TAKESHI SAITO

おおつまち
大津町地域おこし協力隊OB
任期：2015年8月～2018年3月

彼の想いは空を飛び、いつか世界中に届くだろう。

大手航空関連会社に23年間勤める。 しかし社会の変化と共に 仕事の在り方を考える。

ー地域おこし協力隊を知ったきっかけ

家族や仕事で全国を旅している内に、地方での生活に憧れを持つようになりました。仕事を退職したら移住も良いかなと考えていましたが、2010年に親会社が倒産、更に2011年には東日本大震災が起きました。

仕事って誰のためだろう？何のために生きているのだろうか？という事を考える様になり、前倒しで移住を真剣に考え始めました。東京・有楽町の『ふるさと帰郷支援センター』のセミナーに参加しているうちに協力隊の存在を知りました。

ーなぜ大津町の地域おこし協力隊に？

夫婦2人とも生まれてから関東の比較

的都会の中だけで生活してきました。協力隊は地縁や血縁がなくても数年間はそこで給料をもらいながら働け、その間に自分たちが精神的、経済的に生活できるかどうかを見極められる非常に恵まれた制度だと考えました。田舎暮らしにじっくり浸かる生活に不安はありましたが、大津町は熊本市内にも近く、それでいて町の南北はのどかな田園風景が広がっているためハイブリットな生活ができると思いました。

ーミッションと具体的に行った内容

特産品振興と町のPRがミッションでした。着任翌年の4月に熊本地震が発生。役場職員と共に避難所のサポートなどを行いつつ、町の特産品を集めた「応援セット」を開発し、売り上げの一部を町に寄付する活動を行いました。震災が落ち着いた頃から、特産品のサツマイモの若手生産者グループ



の会議に加わり、サポートを行いました。プロモーションは生産者と共に台湾高雄市の百貨店でも行われました。

インバウンド招致に向けて体験プランを模索し、外国人留学生に実際に着物・弓道・折り紙を体験してもらい、その実現性と問題点などを町の観光協会にフィードバック。JR 肥後大津駅前に賑わいを創出するため、実験店舗を設置し特産品を含めた土産物やソフトドリンクの販売を行いマーケティング調査も。地元の高校生をモデル起用した町のPRポスターも制作しました。

初めは町内でどのようにして人脈を築けば良いのかに戸惑いましたね。それに、熊本からまさか台湾に向いてサツマイモのPRが出来るとは思わなかったし、台湾の人が行列までして大津町産のサツマイモを買ってくださる事に感動しました。

ー今後はどうしていきたいか

現在、ご縁を頂き町内にある県立高校の中の売店を運営しています。私たち夫婦を迎え入れてくれた熊本への恩返しのため日々高校生に接しています。私が好きな大津町を町外の方にも好きになってもらえるよう、更に町が輝くように今度は民間の立場でお手伝いをしていきたいです。

ー読んでいる人に伝えたい事

最近空を見上たのはいつでしたか？通勤電車の中、下を向いてスマホばかり見ていたり、街中の移動中も行き交う人と視線を合わせないよう、地面だけを見て歩いていませんか？

熊本は雄大な自然と人の温かさで、あなたの顔をいつの間にか上に向かせてくれる場所です。

彼のデザインは、町の日常に、ある。

「ここには全てがありました。
これが小国町に
定住を決めた理由です。」

東京都出身

伊澤 良樹
YOSHIKI IZAWA

おくにまち
小国町地域おこし協力隊OB
任期：2016年7月～2018年6月



デザインという道具で 小国町の「隠れた資産」を 可視化させる。

一地域おこし協力隊を知ったきっかけ

移住者セミナーに参加した時に、小国町の担当者から教えていただきました。

一なぜ小国町の地域おこし協力隊に？

東京で会社員を辞めて、誰も知らない小国町に家族4人で生活するために仕事を探さなければいけません。その仕事を探す期間の最低限の収入保障としての制度を町の担当者から教えていただいたからです。

一ミッションと具体的にいった内容

小国町では、大きく2つのブランディングのディレクションとデザインをしました。

1つはJA阿蘇の小国ジャージー牛乳。もう1つは小国町森林組合の木工アウトドアブランドです。

他には役場内の様々なパンフレットやカレンダー製作。町のプロジェクトのアートディレクション、美術館の企画展や集落の祭りのポスターなどを製作しました。

一苦労した点、楽しかった点

町に馴染むのに苦労しましたが、住人の方たちが優しく接してくれたので住人との関わりが楽しかったです。

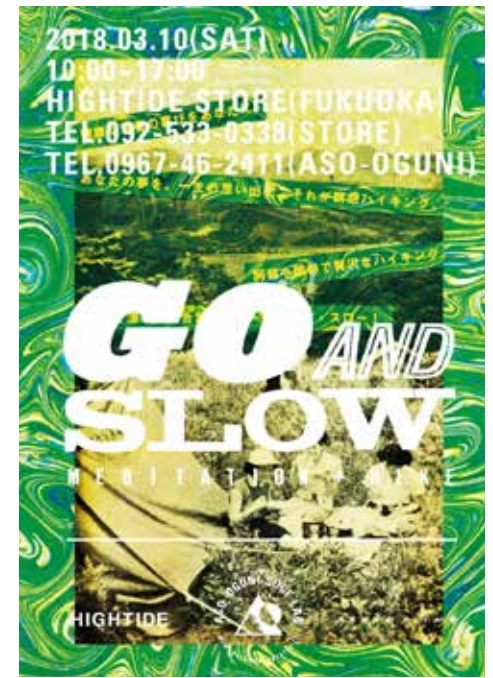
一小国町に定住しようと思った理由

都市部にはない、人間としての大切なものが全てあったからです。



阿蘇に育まれて60年。次の1日、1年もあなたと共に、2018年春、新しい装いで会いましょう。

阿蘇ジャージー牛乳 4.5牛乳 1000ml (1000ml/1000ml) 阿蘇ジャージー牛乳 4.5牛乳 500ml (500ml/500ml)



一今後はどうしていきたいか

子どもたちが住み続けたいと思うような町づくりをしていきたいです。

一読んでいる人に伝えたい事

協力隊という制度は各自治体で様々ですが、3年限定という最低限の収入保障としては、单身の方であればうまく機能するかもしれません。ですが3年という限られた期間で、何も決めずゼロから自分の生業を作るのは非常に難しいと思います。もし可能であれば、自分で生きていける術を身につけてから協力隊という制度を活用することをお勧めします。



大好きなこの町で、大好きな人に囲まれているから彼女は笑えるのです。

「初めて小国を訪れた時から
いつかこの人たちと
仕事がしたいと思ってました。」

熊本県熊本市出身

松井 美佑紀
MIYUKI MATSUI

おくにまち
小国町地域おこし協力隊OG
任期：2015年4月～2018年3月



大学教授の一言が 小国町を知るきっかけとなり 歯車が動き出した。

－なぜ小国町の地域おこし協力隊に？

小国町で働きたかったんですね。協力隊になりたかったわけじゃないんです。地方で働いて私の中では、すごくハードルが高くて。地方に行きたいけれど、仕事がないと思っていました。そんな時に地域おこし協力隊という選択肢は、地方で働き、まちづくりの仕事もできるといふ夢をかなえられる良い仕事だなと思いました。

－なぜ小国町だったのか

元々田舎暮らしや地域おこしに興味があって、当時大学生だった私は、卒業論文制作（以下卒論）にあたり教授から「地

元（熊本県）でフィールドワークをしない」と言われて。卒論は環境や森林、まちづくりといった内容をテーマにしていたので、その時、偶然検索でヒットしたのが小国町でした。

小国町に初めて訪れた時、町のみなさんの明るさやポジティブさ、阿蘇の景色のすばらしさに魅了されてすっかりファンになりました。いつかこの方たちと仕事がしたい、そんな理由から小国町を選びました。

－ミッションと具体的に行った内容

①移住定住窓口の設立・運営

移住定住窓口【小国暮らしの窓口】の立ち上げ、空き家バンクの調査、移住希望者の方の対応（空き家紹介、大家さんとの顔つなぎなどなんでも）、PRに伴う販促物の作成、移住者交流会の企画・運営、

SNS発信です。

②地域振興活動

カフェスタンド【OGU-CARGO】を使った地域イベントへの出店、協力隊企画：足湯カフェの企画・運営、地域イベントのお手伝い、SNS発信です。

－苦労した点、嬉しかった点

まず、言葉が分からない…（同じ県なので分かると思って油断していました）。それから、当たり前のように出てくる地名と人名に戸惑いました。

一方で、地域の方とのつながりが出来た時、知らないことが分かるようになった時「協力隊が来て、明るくなったよ～！」などと声をかけてもらえた時は、とても嬉しかったです。

－小国町に定住しようと思った理由

大手チェーン店もなく、交通機関も充

実していませんが、町外に出なくても生活が完結するので、とにかく住みやすいです。

インターネット環境も整備されています。それから、アットホームで安心感もあります（ほぼ知り合いのような雰囲気）。季節もはっきりしていて、自然が豊かなところですね。観光地気分を味わえる土地柄もお気に入りです。

－読んでいる人に伝えたい事

協力隊という職業は、地方移住へのひとつのきっかけだと思います。

地域への愛着も出てくるとは思いますが、着任地に縛られる必要はないと思っています。ぜひ自分に合った地域を暮らしながら模索する3年間を過ごしてくださいね。

彼は、料理人としての誇りと覚悟を胸に。

「協力隊という仕事に出逢えて
今が一番楽しいと
胸を張って言えます。」

熊本県益城町出身

加藤 誠佑
SEISUKE KATO

たかもりまち
高森町地域おこし協力隊OB
任期：2016年5月～2018年4月



高校卒業後、料理の道へ。 イタリアン・フレンチを学び そして、地域に根付いた料理人に。

一地域おこし協力隊を知ったきっかけ

知り合いから「まちおこしでレストランをしてみないか」と声をかけていただいたきました。

一なぜ地域おこし協力隊に？

これまでの料理というのは、お客様そして会社のためでした。でも協力隊の仕事は、それらにプラスして「まちのため、高森町のため」という視点が加わり魅力を感じました。

一高森町を選んだ理由は？

その知り合いの紹介というのが一番のきっかけですが、出身地に近いこともあ

り、「とりあえず一度やってみよう」という気持ちで選びました。

一ミッションと具体的に行った内容

着任と同時に任された飲食店経営と、食を通して高森町をPR、地域食材を使って商品化することです。3年後の定住が目的なので、初年度から高森町の観光スポットである湧水トンネルのそばにあるレストランの経営を任されました。高森町特産のナスの品種ヒゴムラサキを使ったスープを店を出して、地域の中で使われていなかった調理法を提案したりしました。

また、食育の観点から小学校のメニューを考え、学校に行って食事を振舞うという機会もありました。高森町は田楽が有名なのですが、小学生にはなかなか食べにくく、その食材をカレーの具として使うことで、地域のことに興味を持ってもらえ

たらと思っています。

その他にも特産のトマトの規格外品を使ったレトルトトマトカレーや、高森町にある豊前屋本店さんの醤油と酢を使ったドレッシングの商品化を行いました。

一苦労した点、楽しかった点

地域の方との壁を1年目は特に感じました。どうせ期間が過ぎたら帰るんだろ、とか本気度が伝わらない所にもどかしさを感じました。自分の本気度、高森で生きていくという覚悟を地域の方に知って欲しくて悩んだ初年度でした。

協力隊の任期が2年目に入る頃に2年で卒業し、定住する意思を伝えました。それ以降、地域の方の見る目だったり、心を許してもらえた感じがして嬉しかったですね。

活動内容はどれも楽しかったですね。レ

ストランをしていると地域の方が自分の畑で採れた野菜を持って来てくださるんです。その野菜を召し上がった事のない料理として振舞うとすごく喜んでくださって、とても印象に残っています。

一地元の子を育てていくのが夢

料理で自分の人生を歩んでいける地元の子を育てていくのが夢です。料理だけでなく、お店を持たせることも支援していきたいですね。今もレストランで地元の高校生にアルバイトに来てもらっていて、一緒に賄いを作ったりもするんですよ。

一読んでいる人に伝えたい事

協力隊という仕事に出逢えて、今が一番楽しいと胸を張って言えます。協力隊の仕事はスキルアップのツールだと思います。やってみないとわからないですし、協力隊になってみるのも良いよと伝えたいですね。

「猟師として、農家として
日々の暮らしを丁寧に
山都町で暮らしています。」

和歌山県有田市出身

植村 真穂
MAHO UEMURA

やまとちょう
山都町地域おこし協力隊OG
任期：2017年6月～2020年5月



彼女たちは、命を慈しみ、命をいただく。



インドや日本各地を 飛び回った彼女は 夫婦で山都町の協力隊に。

ー地域おこし協力隊を知ったきっかけ

高校卒業後、進学のために上京し、ペットフードメーカーや製菓メーカーの動物薬部門などで働いてきました。たまたま旅行で訪れたインドに興味を持ち移住し、約5年間インドの日系企業で働いていましたが、インドで出会った夫（日本人）と結婚し、その後は夫の転勤に伴い、生活拠点も仕事も変わる生活をしていました。

夫の転勤で熊本県^{こうしし}合志市に住むことになり、熊本が大好きになり、このまま熊本で暮らしたいと考えるようになりました。いつか自給自足がしたいという思い

があり、「熊本」、「有機農業」で移住先を探していたところ、山都町の地域おこし協力隊の募集記事を見つけました。

ーなぜ山都町の地域おこし協力隊に？

まず、協力隊になれば色々な人に出会えると思いました。また、今後の暮らしの方向性を3年の間に決められる良い機会になるとと思いました。

それに、山都町の募集内容が「ジビエ利活用」と「有機農産物ブランド化」だったので、自給自足にはぴったりだと思い、他の地域と比較することもなく、夫と共に山都町の協力隊に応募しました。

ーミッションと具体的に行った内容

町内に2017年10月にオープンした食肉処理施設「ジビエ工房やまと」にて、猪鹿の解体精肉業務を担当していました。町内では年間約6,000頭の猪鹿が捕獲され

ていますが、「ジビエ工房やまと」ができるまでは猟師自ら解体、もしくは埋設処理しており、食肉として販売することができませんでした。少しでも多くの猪や鹿を早く処理できるよう技術を磨き、作業の効率化に努め、年間約600頭の猪鹿を処理できるようになりました。また、良いものを消費者の皆さんにお届けできるよう、衛生面にも気を配りながら作業してきました。

ー苦労した点、楽しかった点

「ジビエ工房やまと」のオープン当初から関わり、全てゼロからのスタートでした。未経験の慣れない作業に最初は戸惑いでしたが、少しずつ改善し、良いものを皆さんにお届けできるようになりました。

ー山都町に定住しようと思った理由

自然豊かで人が温かいところです。近

所の方たちは家族のように接してくれて、昔からここに住んでいたような居心地の良さを感じています。

ー今後はどうしていきたいか

協力隊の任期満了後、ワンコのご飯屋さん「Mother Earth」を立ち上げ、ワンちゃんのご飯を製造・販売しています。また、猟師として、農家として、日々の暮らしを丁寧に、パラレルワークで生きていこうと思います。

ー読んでいる人に伝えたい事

自分が変われば、周りも変わる。

「芦北は長く住めるトコ。
私は、地方での生活を
大切にしていきたいです。」

熊本県熊本市出身

武末 愛
AI TAKESUE

あしきたまち
芦北町地域おこし協力隊OG
任期：2017年8月～2020年7月



彼女は芦北に来て、宝物をたくさん知った。

東京・福岡の広告会社に勤務。 何かを宣伝する、という経験を 地方で役立てたかった。

一地域おこし協力隊を知ったきっかけ

前の会社の後輩が、岩手県で協力隊になったんです。それに、あるテレビ番組で協力隊の活動を紹介するコーナーを見て「地方創生って面白そう!」と思ったのがきっかけです。

一なぜ地域おこし協力隊に?

田舎で生活したいな、という気持ちがありました。それに協力隊の仕事は自由度の高い仕事ができる、という点でも魅力で、地域おこし協力隊になろうと決めました。

一芦北町を選んだ理由は?

最初は父方に縁のあるあまくさし天草市を候補に

していたのですが、その時は自分の希望と合う業務内容がなくて。諦めかけていましたが、小さい頃によく訪れていた芦北町も見てみることにしたんです。

役場に電話したところ、当時の担当者がわざわざ時間を作ってくださって。いろいろと相談に乗ってもらいました。その時に協力隊の募集も伺い、前職のスキルが活かせるような内容だったため、芦北町に決めました。

一ミッションと具体的にいった内容

“つなげるサポートコーディネーター”という名で、主にふるさと納税を通じ、都会と地方、あるいは事業者と行政、といったつながりをサポートするミッションでした。

まずは芦北町を知ってもらうために長期的なブランディングをしましょう、と

いう話になり、SNSを活用してネット上でPR活動に力を入れました。

一方で、とある地域ではショウガ部会というものがあるって、そこに同期協力隊に偶然シェフの方がいて。「ジンジャーシロップなんてできるんじゃない?」って話から、実際に商品開発がスタート。販売までこぎつけることが出来ました。

一苦労した点、良かった点

芦北町初めての協力隊だったため、どこにゴールを置いて活動するのか、その判断が難しかったですね。

ただ、私の場合は幸いにも「悩まないですか?」っていつも役場が声をかけてくださいました。解決するかは分からなくとも、話を聞いて、問題を共有できる行政の受け入れ態勢があったことは非常に大きかったです。

一今後はやりたいことがいっぱい

今後は、自分のペースで、ここ芦北町での生活を大事にしながら多業をしていきたいですね。

任期中の活動が今も繋がっていて広告会社と協力隊経験を積んだデザイン業、ジンジャーシロップなどの加工品、それと芦北町は令和2年7月豪雨で被災しているその災害復興など、やりたいことがたくさんあります。

その中で、地域の今までの手の届かなかったところにもお金が回るように、総合的に仕事をやっていきたいです。

一読んでいる人に伝えたい事

無理をしないこと。一人で決めずに、然るべきところ、周りに相談すること。そして、楽しい話をしながら、お互い肯定的に話せる環境を作っていけるといいですね。

「気持ちをさらけ出したら
チームみたいな仲間が
できました。」

熊本県熊本市出身

矢山 隆広
TAKAHIRO YAYAMA

多良木町
多良木町地域おこし協力隊OB
任期：2017年8月～2020年3月

彼が切り拓いた道は、人の心に永遠に残るだろう。

初めての移住相談会で即決。 竹を割ったような決断力で 熊本へUターン。

一地域おこし協力隊を知ったきっかけ

熊本県内のスーパーに就職し、転職後は埼玉や東京に行きました。でも、熊本地震を機に地元・熊本に帰ることに。

その時、都内にある移住定住窓口の『ふるさと回帰支援センター』に行ってみたくて。そこで初めて協力隊という制度を知りました。

一なぜ多良木町の地域おこし協力隊に？

ふるさと回帰支援センターの相談員さんから「近々移住相談会があるので来てみませんか」と言われ、参加して話を聞いてみたところ、多良木町は色々な事にチャレンジしやすい環境だなと感じ、そ

れに話をしてくださった担当者さんも面白くて(笑)。その日のうちに、多良木町の協力隊になることを決めて、その2カ月後には多良木町にいました。

一ミッションと具体的に行った内容

多良木町の豊富な山林資源を活かした薪の利活用をメインで行っていました。薪を扱う団体と一緒に売り先を作ろう、って。でも、とにかく売れなくて(笑)。だって住民の方って、薪は買わなくとも手に入るんですよ。1年目からさっそく悩みました。色々うまくいかなくて、協力隊も辞めようかと思っていました。

でも、そんな時に役場の職員さんから「薪だけじゃなくて、自由にやっていいんだよ」と言われて。そこで一気に肩の力が抜けましたね。

2年目からはこの町で出来そうなこと全

部、思いついたこと全部やってみました。

そしたら、この町にはまだたくさんの資源があって、その中で目を付けたのが竹林です。タケノコは採れるし、お宝のように感じましたね。今は近隣地域の人と交えて、竹林整備団体を立ち上げました。

一苦労した点、楽しかった点

苦労と言うか、自分に合った仕事内容を見つけるまでが大変でしたね。それと言うと、僕の場合は「竹」がまさにそれでした。

楽しかった点は、熱いハートを持った地域住民の人たちと出会えたこと。そうだった30～40代の人たちと会うようになって、その人たちの事を知っていくと、多良木町のことを愛して。同年代に自分たちの町の事を本気で考えてる人たち

がいて「この町イケてるやん！」って感動しました。

一今後はどうしていきたいか

竹林整備の団体でも、新たな加工品を製造して、販売できたらと思っています。

一読んでいる人に伝えたい事

悩んでいたりと、疑問に思っていることは溜め込まず、さらけ出した方がいいです。田舎で暮らすって、お互いに歩み寄ることが大事です。僕はそうしました。そうしてきた事で地域の人たちと今も仲良しで、チームみたいだと感じています。

地域の皆さんと行政の皆さんの支えがあるおかげで、僕は多良木町で楽しく暮らしています。皆さんが住んでいる地域でも、皆さんが楽しく過ごせる事を願っております。

熊本県市町村 MAP

熊本県は、14の市と25の町と6の村の
合わせて45市町村でできています。

ネットワークの
ロゴの●は
45市町村を
表現しています！



エリアで
方言も
ちよっと
違う

■県北エリア

- | | | |
|---------|---------|---------|
| 10. 荒尾市 | 11. 玉名市 | 12. 玉東町 |
| 13. 和水町 | 14. 南関町 | 15. 長洲町 |
| 16. 山鹿市 | 17. 菊池市 | 18. 合志市 |
| 19. 大津町 | 20. 菊陽町 | |

■県央エリア

- | | | |
|--------|--------|--------|
| 1. 熊本市 | 2. 宇土市 | 3. 宇城市 |
| 4. 美里町 | 5. 御船町 | 6. 嘉島町 |
| 7. 益城町 | 8. 甲佐町 | 9. 山都町 |

■天草エリア

- | | |
|---------|----------|
| 43. 天草市 | 44. 上天草市 |
| 45. 苓北町 | |

■阿蘇エリア

- | | | |
|---------|----------|----------|
| 21. 阿蘇市 | 22. 南小国町 | 23. 小国町 |
| 24. 産山村 | 25. 高森町 | 26. 南阿蘇村 |
| 27. 西原村 | | |

■県南エリア

- | | | | | |
|---------|---------|-----------|----------|----------|
| 28. 八代市 | 29. 氷川町 | 30. 水俣市 | 31. 芦北町 | 32. 津奈木町 |
| 33. 人吉市 | 34. 錦町 | 35. あさぎり町 | 36. 多良木町 | 37. 湯前町 |
| 38. 水上村 | 39. 相良村 | 40. 五木村 | 41. 山江村 | 42. 球磨村 |

ちょう
町と
読むのは
レア！

難読地名
もありま
すね！

熊本で私たちは、待っています。

2021年3月

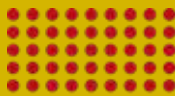
くまもと地域おこし協力隊ネットワーク

九州の真ん中、熊本で
今も続いている21のストーリーなのです。

一人一人に、ドラマがあります。
それらは完結ではありません。

彼／彼女らのお話、いかがだったでしょうか。
誰もが悩み、立ち止まり、考え、
それぞれの地に辿り着きました。

“2020年11月 熊本県庁のイチョウ並木にて”



KUMAMOTO

地域おこし協力隊ネットワーク

facebook



LINE

